

科目名	情報科学Ⅱ								
科目名(英)	Information ScienceⅡ								
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	①中西真由美②城野政博 ③久保田智之				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	①大学にて非常勤講師として勤務(Word・excel) ②③病院にて医療情報技師として勤務				
対象学科・学年	看護科・2年								
授業概要	社会が望んでいる医療の情報化を実現する為に、情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であり、看護師の情報活用能力を高めることを目的とする。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○	○			Excelを応用的に活用し、グラフ作成ができる。			
	○	○				医療情報について説明できる。			
	○	○				主な医療情報システムの概要とメリットについて説明できる。			
	○	○				利用者自身を守る仕組み、院外からのコンピュータウイルスを防ぐ仕組みを踏まえて、コンピュータシステム利用時のルールを説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	<時間:1・2>Excelの使い方(グラフ作成とその編集)					配布資料の事前通読		
	2	<時間:3・4>Excelの使い方(関数機能)					配布資料の事前通読		
	3	<時間:5・6>Excelの使い方(データベース機能)					配布資料の事前通読		
	4	<時間:7・8>Excelの使い方(まとめ)					配布資料の事前通読		
	5	<時間:9・10>医療情報およびコンピュータとは何か					配布資料の事前通読		
	6	<時間:11・12>医療情報システムとは何か					配布資料の事前通読		
	7	<時間:13・14>医療情報システムの利用上の注意点 ルール・守秘義務					配布資料の事前通読		
	8	<時間:15>医療情報システムのまとめ					配布資料の事前通読		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。1名の講師は、PC操作技術も含む。 ・60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	筆記試験(中西)	◎	◎	◎			60%		
	筆記試験(城野・久保田)	◎	◎				40%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。								

科目名	社会・生活論						
科目名(英)	Social and Life Theory						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	武藤桐子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	大学にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	社会とは何か、また、社会における人と人との結びつきについて考えることを通し、人間を理解し看護実践の基盤を築くことを目的とする。社会学の基礎的な概念や、現代社会で生じている様々な問題について学ぶことで、社会についての理解を深め、またそれらの問題と医療・看護との関連について考えることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会と自己との関係について説明できる。	
	○	○				集団および組織についての基礎的な概念と、集団および組織が個人に与える影響について説明できる。	
	○	○				家族についての基礎的な概念と「近代家族」が成立および一般化社会的背景について説明できる。	
	○	○				家族および個人のライフコースの変化と、関連する法制度についての知識を身につけ、説明できる。	
	○	○				貧困やドメスティック・バイオレンスなど個人の健康に影響を与える社会問題についての現状と、関連する法制度についての知識を身につけ、説明できる。	
○	○					現代社会において地域が抱える問題について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	社会学の基礎(有斐閣Sシリーズ) 社会学に関する資料全て						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1~5>「イントロダクション:社会とは何か、自己とは何か」			配布資料の事前通読		
	2	<時間:6~10>「集団と組織」			配布資料の事前通読		
	3	<時間:11~15>「家族①:家族とは何か」			配布資料の事前通読		
	4	<時間:16~20>「家族②:家族とライフコースの変化」			配布資料の事前通読		
	5	<時間:21~25>「社会と健康」			配布資料の事前通読		
	6	<時間:26~30>「地域社会における課題」			配布資料の事前通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	外国語(英語)Ⅱ						
科目名(英)	Foreign language Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	マックス・ゴンザレス トム・エモット		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	2名とも学校にて英語講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	病院を受診・入院してきた患者への看護英会話(レベルアップ)1						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Personal Information Introducing a Friend ができる。	
	○	○				Departments & Occupations in a Hospital がわかる。	
	○	○				Emergency English を使って患者の基本情報を聴取できる。	
	○	○				Symptoms-Usage を使って患者の症状を問診できる。	
	○	○				入院時に病棟内の場所や備品を説明することができる。	
	○	○				病院の中にある備品の英語がわかる	
	○	○				Diseases(Disorders) Word を使って患者の病歴を聴取できる。	
	○	○				検査時の指示をすることができる。	
	○	○				Hospital Testsの英語がわかる。	
テキスト・教材 参考図書	こころの看護英語物語 Challenge Book						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2>Do you work on the surgical ward?(困ったときの英語)			配布資料の事前通読		
	2	<時間:3・4>Do you work on the surgical ward?(診療科名)			配布資料の事前通読		
	3	<時間:5・6>Do you work on the surgical ward?(患者の基本情報)			配布資料の事前通読		
	4	<時間:7・8>What's your problem today?(検査時の会話)			配布資料の事前通読		
	5	<時間:9・10>What's your problem today?(患者の症状)			配布資料の事前通読		
	6	<時間:11・12>What's your problem today?(病室での会話)			配布資料の事前通読		
	7	<時間:13・14>What's your problem today?(診療科)			配布資料の事前通読		
	8	<時間:15・16>This is the nurses' station.(病院の中にある備品の単語)			配布資料の事前通読		
	9	<時間:17・18>This is the nurses' station.(病院の場所の単語)			配布資料の事前通読		
	10	<時間:19・20>This is the nurses' station.(病棟内の場所や備品の説明)			配布資料の事前通読		
	11	<時間:21・22>This is the nurses' station.(入院時オリエンテーション)			配布資料の事前通読		
	12	<時間:23・24>This is the nurses' station(病歴・症状の単語)			配布資料の事前通読		
	13	<時間:25・26>This is the nurses' station(患者の病歴・症状の聴取)			配布資料の事前通読		
	14	<時間:27・28>You need to have an MRI.(検査における単語)			配布資料の事前通読		
15	<時間:29・30>You need to have an MRI.(検査指示・説明)			配布資料の事前通読			
評価方法	・口頭試問と筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	口頭試問・筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	病態生理学Ⅴ(眼)						
科目名(英)	Pathophysiology V. Eye						
単位数	1単位	時間数	6時間/30時間	担当者	小林義行 向坂親蔵		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	2名とも病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	眼疾患、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。眼疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 眼の解剖と機能について説明できる。	
	○	○				2. 視覚障害について説明できる。	
	○	○				3. 代表的な眼科検査について説明できる。	
	○	○				4. 白内障、緑内障の原因・症状・治療について説明できる。	
	○	○				5. 網膜症、結膜炎の治療の原因・症状・治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 眼 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2> 眼の解剖と機能、視覚障害・屈折異常について			配布資料の事前通読 通読		
	2	<時間:3・4> 疾患の理解(眼瞼の疾患、結膜の疾患、ぶどう膜の疾患、網膜の疾患)			配布資料の事前通読 通読		
	3	<時間:5・6> 疾患の理解(緑内障・白内障・網膜症・結膜炎の治療)			配布資料の事前通読 通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小林・向坂)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅴ(歯)								
科目名(英)	Pathophysiology V. Skin								
単位数	1単位	時間数	6時間/30時間	担当者	中松耕治				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務				
対象学科・学年	看護科・2年								
授業概要	歯疾患、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。歯疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				1. 歯、口腔の構造と機能について説明できる。			
	○	○				2. 齲歯と災害時の口腔ケアについて説明できる。			
	○	○				3. 代表的な病態:舌癌・誤嚥性肺炎と治療法が説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 歯 講師配布資料								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	<時間:1・2> 歯、口腔の解剖と機能、耳の疾患の種類について				配布資料の事前通読 通読			
	2	<時間:3・4> 齲歯・口腔ケアについて				配布資料の事前通読 通読			
	3	<時間:5・6> 歯、口腔に関する病態と治療法、疾患の種類について:舌癌・誤嚥性肺炎				配布資料の事前通読 通読			
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	筆記試験(中松)	◎	◎				100%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 *病態生理Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。								

科目名	病態生理学Ⅴ(耳鼻咽喉)						
科目名(英)	Pathophysiology V. Ear nose and throat						
単位数	1単位	時間数	6時間/30時間	担当者	佐藤公宣 川口壽比古		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	2名とも病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	耳鼻咽喉器疾患、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。耳鼻咽喉器疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 耳の構造と機能について説明できる。	
	○	○				2. 咽頭の解剖と機能について説明できる。	
	○	○				3. 代表的な耳鼻咽喉系の病態と治療法(中耳炎・難聴・メニエール病)が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 耳鼻咽喉 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2> 耳の解剖と機能、耳の疾患の種類について			配布資料の事前通読 通読		
	2	<時間:3・4> 咽頭の解剖と機能、咽頭の疾患の種類について			配布資料の事前通読 通読		
	3	<時間:5・6> 耳鼻咽喉系の病態と治療法、咽頭の疾患の種類について(中耳炎・難聴・メニエール病)			配布資料の事前通読 通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅴ(皮膚)						
科目名(英)	Pathophysiology V. Skin						
単位数	1単位	時間数	8時間/30時間	担当者	幸田太		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	皮膚疾患、がもたらず身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。皮膚疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 皮膚の構造と機能について説明できる。	
	○	○				2. 皮膚の解剖と機能について説明できる。	
	○	○				3. 皮膚の疾患:接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・異常性乾癬・全身性エリテマトーデス・ベーチェット病・熱傷・皮膚筋炎・異常性天疱瘡・カンジタ・尋常性疣贅・基底細胞癌の種類がわかる。	
	○	○				4. 代表的な皮膚の病態と治療法が説明できる。(接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・異常性乾癬・全身性エリテマトーデス・ベーチェット病・熱傷・皮膚筋炎・異常性天疱瘡・カンジタ・尋常性疣贅・基底細胞癌)	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 Ⅱ 成人看護学 皮膚 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1・2>皮膚の解剖と機能				配布資料の事前通読 通読	
	2	<時間:3・4>皮膚の解剖と機能について				配布資料の事前通読 通読	
	3	<時間:5・6>皮膚に関する病態と治療法、皮膚の疾患の種類について①:接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・異常性乾癬・全身性エリテマトーデス				配布資料の事前通読 通読	
	4	<時間:7・8>皮膚に関する病態と治療法、皮膚の疾患の種類について②:ベーチェット病・熱傷・皮膚筋炎・異常性天疱瘡・カンジタ・尋常性疣贅・基底細胞癌				配布資料の事前通読 通読	
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(幸田)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 *病態生理Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	治療論Ⅱ(栄養)						
科目名(英)	Therapeutics II Nutrition						
単位数	1単位	時間数	10時間/30時間	担当者	重松由美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて栄養士として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	栄養と代謝の意義を理解し、患者指導等の看護へ活用されるよう基本的な食事療法について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 栄養管理における看護の役割が説明できる。	
	○	○				2. 栄養管理の必要性が説明できる。	
	○	○				3. 三大栄養素(糖質・脂肪・蛋白質)のはたらきが説明できる。	
	○	○				4. 病院食の意義・種類がわかる。	
	○	○				5. 嚥下障害患者における嚥下訓練と訓練食について説明できる。	
	○	○				6. 実際の栄養食を試食することによって、味・食感・形状などを学び栄養における看護アセスメント出来る。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	＜時間:1・2＞ライフステージと栄養				配布資料の事前通読	
	2	＜時間:3・4＞生活習慣、基礎代謝量と食事				配布資料の事前通読	
	3	＜時間:5・6＞栄養状態の評価と判定				配布資料の事前通読	
	4	＜時間:7・8＞食事療法の実際、患者指導				配布資料の事前通読	
	5	＜時間:9・10＞栄養補給法の種類と方法・特徴				配布資料の事前通読	
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 筆記試験(栄養100%+放射線100%+理学療法100%)/3=100% で評価を行う。						

科目名	治療論Ⅱ(画像診療・放射線医学)						
科目名(英)	Therapeutic theory II Imaging and Radiology						
単位数	1単位	時間数	6時間/30時間	担当者	鳥井芳邦 吉開友則 久賀元兆		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	3名とも病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	放射線の歴史、定義、画像診断の進め方について学ぶ。 放射線の種類と性質、人体への影響と対策について学ぶ。 MRIの原理、特徴、検査適応・禁忌、超音波の原理、特徴、適応、前処置等について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 放射線とは何か、放射線科(画像診療科)の役割についてを説明できる。	
	○	○				2. 癌治療としての放射線治療の役割、利点について説明できる。	
	○	○				3. 画像診断の進め方について説明できる。	
	○	○				4. MRIとは何か、MRI装置・原理・特徴、MRI検査での禁忌について説明できる。	
	○	○				5. 超音波とは何か、超音波検査での前処置などについて説明できる。	
	○	○				6. 放射線の種類、性質・特徴を説明できる。	
	○	○				7. 放射線の人体への影響、放射線防護の必要性・方法を説明できる。	
	○	○				8. 放射線被曝の対策、放射線治療と看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1・2>放射線の歴史、定義、画像診断の進め方				配布資料の事前通読	
	2	<時間:3・4>MRIの原理、特徴、検査適応・禁忌、超音波の原理、特徴、適応、前処置等				配布資料の事前通読	
	3	<時間:5・6>放射線の種類と性質、人体への影響と対策				配布資料の事前通読	
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(鳥井 吉開 久賀)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 筆記試験(栄養100%+放射線100%+理学療法100%)/3=100% で評価を行う。						

科目名	治療論Ⅱ(理学療法)						
科目名(英)	Therapeutic theory II Physical Therapy						
単位数	1単位	時間数	11時間/30時間	担当者	山崎哲弘 山下静香 西村天利 星野望美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	4名とも病院にて理学療法士として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	リハビリテーションについて概念、基本的知識を理解することで対象への治療の意義について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. リハビリテーションの定義、理念が説明できる。	
	○	○				2. リハビリテーション看護における機能・態度・方法論が説明できる。	
	○	○				3. 中枢神経系の障害(脳血管障害)のメカニズムとリハビリテーション看護の方法が説明できる。	
	○	○				4. 呼吸器系の障害(慢性閉塞性肺疾患)のメカニズムとリハビリテーション看護の方法が説明できる。	
	○	○				5. 循環器系の障害(虚血性心疾患)のメカニズムとリハビリテーション看護の方法が説明できる。	
	○	○				6. リハビリテーション室の見学授業によって、各訓練の実際(方法・器具・態度・訓練を受ける患者の様子など)が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統別看護学講座 リハビリテーション						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1~3>リハビリテーションの定義と理念、看護について				配布資料の事前通読	
	2	<時間:4・5>中枢神経系の障害とリハビリテーション看護				配布資料の事前通読	
	3	<時間:6・7>呼吸器系の障害とリハビリテーション看護				配布資料の事前通読	
	4	<時間:8・9>循環器系の障害とリハビリテーション看護				配布資料の事前通読	
	5	<時間:10~11>リハビリテーション室見学				配布資料の事前通読	
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 筆記試験(栄養100%+放射線100%+理学療法100%)/3=100% で評価を行う。						

科目名	看護学概論Ⅱ(ヘンダーソン理論)						
科目名(英)	Introduction to nursing science II: Henderson Theory						
単位数	1単位	時間数	15時間/30時間	担当者	上田朋紀		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	看護過程の展開するための基盤となる看護理論を学ぶ。ここでは、ヘンダーソンの看護に対する考え方(理論)をグループワークにて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1) ヘンダーソンの考える「看護の主要概念(人間・環境・健康・看護)」「看護師の独自の機能」「自立」を述べるができる	
	○	○				2) 「基本的欲求」と「基本的看護」の関連について述べるができる	
	○	○				3) 「基本的欲求」と「体力・意思力・知識」の関連について述べるができる	
	○	○				4) 「基本的欲求」と「常在条件」「病理的状态」の関連について述べるができる	
	○	○				5) 基礎Ⅱ実習での看護の実際を以下とつなげて述べるができる	
	○	○				6) ヘンダーソンの考える「看護」を理解し、「自己の看護の考え方」を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	看護の基本となるもの						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	＜時間1＞ヘンダーソンの看護理論とは ※時間1～15:グループワーク			・事前課題として、ヘンダーソンの理論に関する書籍の通読 ・キーワードを下にレポート作成		
	2	＜時間2＞ヘンダーソンの考えとは～看護の主要概念(人間・環境)～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	3	＜時間3＞ヘンダーソンの考えとは～看護の主要概念(健康・看護)～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	8	＜時間3＞ヘンダーソンの考えとは～看護師の独自の機能/自立～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	4	＜時間4＞ヘンダーソンの考えとは～看護の独自の機能～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	5	＜時間5＞ヘンダーソンの考えとは～自立～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	6	＜時間6＞ヘンダーソンの考えとは～基本的欲求～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	7	＜時間7＞ヘンダーソンの考えとは～基本的看護～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	8	＜時間8＞ヘンダーソンの考えとは～常在条件～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	9	＜時間9＞ヘンダーソンの考えとは～病理的状态～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	10	＜時間10＞ヘンダーソンの考えとは～基本的欲求と基本的看護の関連～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	11	＜時間11＞ヘンダーソンの考えとは～基本的欲求と体力・意思力・知識の関連～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
	12	＜時間12・13＞ヘンダーソンの考えとは～基本的欲求と常在条件の関連～			・グループワークで検討した内容を振り返る		
13	＜時間14・15＞ヘンダーソンの考えとは～基本的欲求と病理的状态の関連～			・グループワークしてきたものを参考に期日までにレポート提出			
評価方法	評価: 提出レポート内容(80%)・態度面(20%) 計100% 成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎					80%
	態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術Ⅶ								
科目名(英)	Basic nursing technologyⅦ								
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	光武和寿				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務				
対象学科・学年	看護科・2年								
授業概要	既存の知識や理論を活用するプロセスを学び、看護実践に継げるために看護研究の重要性を理解し、科学的思考や態度を身につける。実際の看護研究文献を読み解きながら看護研究の理解を深める。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				研究に対する基本的倫理の考え方や研究に対する倫理的配慮の必要性を説明できる。			
	○	○				看護研究過程や研究に関する専門用語を説明できる。			
	○	○				実験看護研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。			
	○	○				調査看護研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。			
	○	○				事例看護研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。			
	○	○				文献研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。			
	○	○				論文の書き方、引用文献・参考文献等の研究報告の書き方の基本が説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	看護学概論テキスト 参考図書:『これからの看護研究—基礎と応用—』『jinブックス 看護研究の進め方 論文の書き方』看護研究スタッフを指導するために 第2版 等								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	＜時間:1・2＞研究とは何か、看護研究とは、看護研究と倫理的配慮				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。			
	2	＜時間:3・4＞看護研究過程の概観、看護研究における文献検索の意義				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。			
	3	＜時間:5・6＞ケーススタディー研究課程について				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。			
	4	＜時間:7・8＞実験研究について(ラベンダーオイルを用いた足温浴のリラクゼーション効果)				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。			
	5	＜時間:9・10＞調査研究について(一般病床での看取りの看護における看護師のストレスと感情体験)				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。			
	6	＜時間:11・12＞事例研究について(悲嘆状況にある患者のケア)				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。			
	7	＜時間:13・14・15＞論文の書き方、文献研究について				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>態度は、講義中の参加状況、事前課題の実施状況による判断する。</li> <li>試験は、講義中の資料を持ち込みとし、講義期間中程度同様に文献を読みながら課題実施の形式とする。</li> <li>筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。</li> </ul>								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	筆記試験	◎	◎				80%		
	態度				◎		20%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。								

科目名	基礎看護学実習Ⅱ						
科目名(英)	Basic Nursing Practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨地指導者 野中紀子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	全員病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	看護の対象を理解し、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1.患者の療養環境について説明できる。	
	○	○				2.患者とのコミュニケーションを通し、患者のニーズについて説明できる。	
	○	○				3.人間関係が成立するまでのコミュニケーションの重要性について説明できる。	
	○	○	○			4.対象の全体像を知るためにヘンダーソン理論に基づき、系統的に情報収集ができる。	
	○	○	○	○		5.原理原則に基づいて、日常生活活動の援助技術を実施できる。	
				○		6.看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	基礎看護学の講義資料 その他、基礎看護に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週 間	収集した情報を意義・標準・平均・正常化・日常性の視点で照合・比較				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
		充足した状態か否かを判断し記述				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
		体力、意思力、知識3つの視点から未充足の原因を考え記述				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
		問題の成り行きについて記述				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
		看護の方向性についての判断をした上で記述				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
		感染予防の看護技術を原理原則に基づいて実施				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
		与薬の看護技術を原理原則に基づいて実施				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
環境	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学方法Ⅱ(循環・ME)							
科目名(英)	Adult nursing method II Circulation, ME							
単位数	2単位		時間数	32時間/60時間		担当者	①山本勇也 ②井桁洋貴	
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて①看護師・②臨床工学技士として勤務	
対象学科・学年	看護科・2年							
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、循環器機能障害および、医療機器を中心に学ぶ。							
授業形式	講義: ○		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				1. 循環器疾患に関する医療の動向・循環機能が生命と生活に与える影響について説明できる。		
	○	○				2. 循環器疾患に対する身体的問題および精神・社会的な問題について説明できる。		
	○	○				3. 循環機能のメカニズム(ポンプ機能・輸送還流機能)、循環器系の検査・治療・処置を説明できる。		
	○	○				4. 心筋梗塞・心不全・深部静脈血栓症疾患の特徴を理解し、看護援助および患者・家族指導の重要性を説明できる。		
	○	○				5. 医療器具(輸液ポンプの駆動法・自動血圧計・パルスオキシメーター・ネブライザー・心電図・モニター・除細動・人工呼吸器)について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 循環器[3]							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	<時間:1・2>医療の動向と循環器看護の特徴(山本)					配布資料の事前通読	
	2	<時間:3・4>循環器系の検査・治療・処置を受ける患者の看護:身体的(山本)					配布資料の事前通読	
	3	<時間:5・6>循環器系の検査・治療・処置を受ける患者の看護:社会的(山本)					配布資料の事前通読	
	4	<時間:7・8>循環器系の検査・治療・処置を受ける患者の看護:精神的(山本)					配布資料の事前通読	
	5	<時間:9・10>循環器で特徴的な治療・処置と患者の看護:モニタリング(山本)					配布資料の事前通読	
	6	<時間:11・12>循環器で特徴的な治療・処置と患者の看護:深部静脈血栓症予防(山本)					配布資料の事前通読	
	7	<時間:13・14>循環器で特徴的な治療・処置と患者の看護:セルフマネジメント(山本)					配布資料の事前通読	
	8	<時間:15・16>虚血性心疾患患者の看護:心筋梗塞(山本)					配布資料の事前通読	
	9	<時間:17・18>虚血性心疾患患者の看護:心不全(山本)					配布資料の事前通読	
	10	<時間:19・20>虚血性心疾患患者の看護:不整脈(山本)					配布資料の事前通読	
	11	<時間:21・22>主要な循環器疾患をもった患者の看護:心筋梗塞・心不全の看護過程展開(山本)					配布資料の事前通読	
	12	<時間:23・24>主要な循環器疾患をもった患者の看護:不整脈の看護過程展開(山本)					配布資料の事前通読	
	13	<時間:25・26>医療機器の取り扱いについて:輸液ポンプの駆動法・自動血圧計・パルスオキシメーター・ネブライザー(井桁)					配布資料の事前通読	
	14	<時間:27・28>医療機器の取り扱いについて:心電図・モニター・除細動・人工呼吸器(井桁)					配布資料の事前通読	
	15	<時間:29・30>循環器手術療法看護について(山本)					配布資料の事前通読	
	16	<時間:31・32>集中治療室看護について(山本)					配布資料の事前通読	
評価方法	・2名の講師による講義内容を筆記試験各50% 合計100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験(山本)	◎	◎				80%	
	筆記試験(井桁)	◎	◎				20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 成人看護学方法Ⅱ2単位取得には、(成人看護学方法Ⅱ循環器100%+呼吸機能障害50%+生食防御25%+血液機能障害25%+救急看護論100%)/3=60%以上が必要。							

科目名	成人看護学方法Ⅱ(呼吸・感染・血液)					
科目名(英)	Adult Nursing Method II: Respiration, Infection, Blood					
単位数	2単位	時間数	18時間/60時間	担当者	山本勇也 山下智雅 和田 麻美	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	3名とも病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・2年					
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、呼吸器機能障害、生態防御機能障害、血液・造血機能障害の視点を中心に学ぶ。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				1. 呼吸器疾患患者や生体防御機能障害に対する身体的および精神・社会的問題、呼吸器障害や生態防御機能障害のメカニズムについて述べるができる。
	○	○				2. 呼吸器疾患や生態機能障害が患者の日常生活にどのような影響を与えるか、急性期を経て、慢性期、外来・在宅という継続看護を含め、述べるができる。2
	○	○				3. 疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。
	○	○				
○	○					
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学呼吸器[2] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 血液・造血器[4] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 アレルギー/膠原病/感染症[11]					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	<時間1・2>呼吸器疾患の概要(山本)			配布資料の事前通読	
	2	<時間3・4>呼吸器の構造と機能(山本)			配布資料の事前通読	
	3	<時間5・6>呼吸機能障害の観察とアセスメント(山本)			配布資料の事前通読	
	4	<時間7・8>呼吸機能障害: COPDをもつ患者へのおもな看護(山本)			配布資料の事前通読	
	5	<時間9・10>免疫機能の観察とアセスメント(和田)			配布資料の事前通読	
	6	<時間11・12>免疫機能低下: 易感染患者・化学療法・移植・無菌室の看護(和田)			配布資料の事前通読	
	7	<時間13・14>感染症の観察とアセスメント(山下)			配布資料の事前通読	
	8	<時間15・16>感染症の看護: 標準予防策・経路別予防対策(山下)			配布資料の事前通読	
	9	<時間17・18>継続看護、患者・家族指導(山本)			配布資料の事前通読	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験(山本)	◎	◎			50%
	筆記試験(山下)	◎	◎			25%
	筆記試験(和田)	◎	◎			25%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 成人看護方法Ⅱ2単位取得には、(成人看護方法Ⅱ循環器100%+呼吸機能障害50%+生態防御25%+血液機能障害25%+救急看護論100%)/3=60%以上が必要。					

科目名	成人看護学方法Ⅲ(脳・感覚・運動)						
科目名(英)	Adult Nursing Method II: Respiration, Infection, Blood						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小原智恵子 樋口圭子 西島明日香 小島薫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、脳神経機能障害、感覚器機能障害、運動機能障害の視点を中心に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 脳神経疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				2. 脳神経機能障害のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				3. 脳神経疾患:パーキンソン病・認知症・けいれん・頭蓋内圧亢進・脳内ドレナージ・意識障害・くも膜下出血が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				4. 感覚器系疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				5. 感覚器系機能障害のメカニズム:五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)について述べるができる。	
	○	○				6. 感覚器系機能障害が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				7. 運動機能疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				8. 運動機能障害のメカニズム:神経麻痺・拘縮・骨折について述べるができる。	
	○	○				9. 運動機能疾患が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
○	○				10. 各疾患(骨折)の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 脳神経 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 感覚器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2・3・4> 脳神経疾患の概要(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	2	<時間:5・6・7・8> 脳神経の構造と機能(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	3	<時間:9・10・11・12> 脳神経機能障害の観察とアセスメント(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	4	<時間:13・14> 脳神経機能障害をもつ患者へのおもな看護(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	5	<時間:15> 感覚器機能障害の概要(西島)			配布資料の事前通読		
	6	<時間:16> 感覚器機能の構造と機能(西島)			配布資料の事前通読		
	7	<時間:17> 感覚器機能障害の観察とアセスメントと看護(西島)			配布資料の事前通読		
	8	<時間:18・19・20・21> 継続看護、患者・家族指導(西島・小原・樋口・小島)			配布資料の事前通読		
	9	<時間:22・23> 運動器機能の構造と機能(小島)			配布資料の事前通読		
	10	<時間:24・25> 運動器疾患の概要(小島)			配布資料の事前通読		
	11	<時間:26・27> 運動器機能の構造と機能(小島)			配布資料の事前通読		
	12	<時間:28・29・30> 運動機能障害の観察とアセスメントと看護(小島)			配布資料の事前通読		
評価方法	・3名の講師による筆記試験1回(100%)と 1名の講師による筆記試験1回(100%)の合計の1/2の点数で評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(小原)	◎	◎			30%
		筆記試験(樋口)	◎	◎			50%
		筆記試験(西島)	◎	◎			20%
	筆記試験(小島)	◎	◎			100%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学方法Ⅳ(内分泌・体液調整・泌尿器・生殖器)						
科目名(英)	Adult Nursing Method IV. Endocrine organ, fluid regulation, urinary organ, genital function						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	岩橋淑恵 小松加寿子 冷川薫 佐野美和子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	4名とも病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、内分泌器機能障害、体液調整機能障害、泌尿器障害、生殖器機能障害の視点を中心に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 内分泌器疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				2. 内分泌機能障害:ホルモンと甲状腺のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				3. 内分泌疾患:糖尿病・脂質異常症が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				4. 体液調整器系疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				5. 体液調整器系機能障害:腎不全・脱水・ネフローゼ症候群・酸塩基平衡の障害・慢性腎臓病・透析のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				6. 体液調整器系機能障害が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				7. 体液調整器系機能障害:膀胱がん・尿路結石症の周手術期看護について述べるができる。	
	○	○				8. 生殖器疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				9. 生殖器機能障害のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				10. 生殖器機能疾患が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				11. 各疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 内分泌器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 腎泌尿器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 生殖器						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2>内分泌器系疾患の概要(岩橋)			配布資料の事前通読		
	2	<時間:3・4>内分泌器の構造と機能(岩橋)			配布資料の事前通読		
	3	<時間:5・6>内分泌器機能障害の観察とアセスメント(岩橋)			配布資料の事前通読		
	4	<時間:7・8>内分泌器機能障害をもつ患者へのおもな看護(岩橋)			配布資料の事前通読		
	5	<時間:9・10>体液調整・泌尿器機能経疾患の概要(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	6	<時間:11・12>体液調整・泌尿器機能の構造と機能(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	7	<時間:13・14>体液調整・泌尿器機能障害の観察とアセスメント(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	8	<時間:15・16>体液調整・泌尿器系機能障害をもつ患者へのおもな看護(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	9	<時間:17・18>継続看護、患者・家族指導(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	10	<時間:19・20>生殖器機能の構造と機能(佐野)			配布資料の事前通読		
	11	<時間:21・22>生殖器疾患の概要(佐野)			配布資料の事前通読		
	12	<時間:23・24>生殖器機能の構造と機能(佐野)			配布資料の事前通読		
	13	<時間:25・26>生殖器機能障害の観察とアセスメント(佐野)			配布資料の事前通読		
	14	<時間:27・28>生殖器機能障害をもつ患者へのおもな看護(佐野)			配布資料の事前通読		
15	<時間:29・30>継続看護、患者・家族指導(佐野)			配布資料の事前通読			
評価方法	・講師(岩橋、小松)による筆記試験1回(100%)と 講師(冷川、佐野)による筆記試験1回(100%)、計2回の試験合計の1/2の点数で評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(岩橋)	◎	◎			50%
		筆記試験(小松)	◎	◎			50%
		筆記試験(冷川)	◎	◎			50%
	筆記試験(佐野)	◎	◎			50%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学方法 I						
科目名(英)	Gerontological nursing method I						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	田中美香		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	高齢者は、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴から「生活機能」の障害が生じやすい。生活機能の障害は、高齢者の「生活行動」に影響してくる。高齢者ゆえの生活行動の特徴や、それに対する援助(アセスメント看護)について学ぶ。また、高齢者ゆえの身体的特徴(加齢変化)から健康を逸脱することも多いため、その特徴的な症状・疾病・障害などをもつ高齢者の回復を支える看護、エンドオブライフケアも含めて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 老年看護の役割や、基本となる考え方(変遷、倫理、特徴、高齢者理解の概念など)について説明できる。	
	○	○				2. 高齢者の健康状態(加齢に伴う機能の変化)と生活の変化について説明できる。	
	○	○				3. さまざまな健康状態に応じた高齢者の看護について説明できる。	
	○	○				4. 高齢者に特有な疾患・障害と看護について説明できる。	
	○	○				5. 生活する高齢者の健康を支える看護や、高齢者を支える家族への看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 ・配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1・2> 老年看護学概論の振り返り 老年看護の倫理				授業内容に関わる確認テストを実施するため テキスト事前通読による学習をして臨むこと	
	2	<時間:3・4> 老年看護学概論の振り返り 高齢者の健康状態(加齢に伴う機能の変化)					
	3	<時間:5・6> 老年看護の成り立ち(老年看護の定義)、老年看護学教育の発展					
	4	<時間:7・8> 老年看護の目指すもの(考え方、生活行動モデル、目標指向型思考)					
	5	<時間:9・10> 高齢者の生活(食事、摂食嚥下障害、低栄養)を支える看護					
	6	<時間:11・12> 高齢者の生活(排泄、尿失禁、便秘・下痢)を支える看護					
	7	<時間:13・14> 高齢者の生活(清潔、高齢者に多い皮膚障害)を支える看護					
	8	<時間:15・16> 高齢者の生活(活動、転倒の防止と影響、歩行・移動)を支える看護					
	9	<時間:17・18> 高齢者の生活(睡眠、休息、睡眠障害)を支える看護					
	10	<時間:19・20> 高齢者の生活(性、セクシュアリティ)を支える看護					
	11	<時間:21・22> 高齢者の生活機能の評価、高齢者総合機能評価<CGA>					
	12	<時間:23・24> 高齢者の生活機能<ICF>、高齢者の特徴的な災害時の看護					
	13	<時間:25・26> 高齢者の清潔(手浴・足浴の工夫、フットケアの方法)を支える看護					
	14	<時間:27・28> 高齢者の摂食嚥下障害(嚥下機能訓練の方法)を支える看護、歩行・移動(杖歩行、移乗方法)を支える看護					
	15	<時間:29・30> 高齢者に特有な廃用症候群の看護(アクティビティ、ロコモティブシンドローム、フレイル)					
	16	<時間:31・32> 高齢者に特有な脱水症の看護					
	17	<時間:33・34> 高齢者に特有な視覚障害・聴覚障害の看護					
	18	<時間:35・36> 高齢者に特有なコミュニケーションと看護ケア(言語障害)					
	19	<時間:37・38> 高齢者に特有な骨粗鬆症・骨折の看護					
	20	<時間:39・40> 高齢者に特有なうつ病の看護					
	21	<時間:41・42> 高齢者に特有なせん妄の看護					
	22	<時間:43・44> 高齢者に特有な認知症の看護(認知症の特徴を映画鑑賞)					
	23	<時間:45・46> 高齢者に特有な認知症の看護(認知症の症状・対応の考え方)					
	24	<時間:47・48> 高齢者に特有な認知症の看護(認知症とは、認知症の種類・症状・治療・予防・評価方法)					
	25	<時間:49・50> 高齢者に特有な認知症の看護(認知症のアセスメント・ケア、急性期一般病床での援助)					
	26	<時間:51・52> 介護を必要とする高齢者の家族の看護(家族の発達課題、介護力)					
	27	<時間:53・54> 介護を必要とする高齢者の家族の看護(家族の発達課題、介護力)					
	28	<時間:55・56> 受領形態に応じた高齢者への看護(外来・入院・検査・手術・退院時)					
	29	<時間:57・58> 薬物治療を受ける高齢者の看護(薬物動態の変化、服薬管理)					
	30	<時間:59・60> エンドオブライフケア、人生の最終段階にある高齢者への看護					
評価方法	・講義内容を 筆記試験 にて評価を行う。 ・筆記試験 60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。(授業参加状況も踏まえて採点する)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎		○		100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Gerontological nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	田中美香		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	ペーパーペイシエントによる事例を通して、生活機能障害にある高齢者の看護過程を展開する方法を学ぶ。 (※とくに生活機能の観点から、目標志向型思考をふまえて教授する)						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 病態や心身機能・構造について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				2. その人らしさや個人因子・環境因子について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				3. その人の望む生活や活動・参加について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				4. その人の望む生活を目指した健康課題(看護問題)について説明できる。	
	○	○				5. その人の望む生活を目指し、強みを活かした看護の方法(看護計画)について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学</li> <li>・老年看護学Ⅰの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	＜時間:1・2・3＞ 病態や心身機能・構造について、情報をアセスメント(分析・判断)			グループ学習によって理解と分析を深める		
	2	＜時間:4・5・6＞ その人らしさや個人因子・環境因子について、情報をアセスメント(分析・判断)			グループ学習によって理解と分析を深める		
	3	＜時間:7・8・9＞ その人の望む生活や活動・参加について、情報をアセスメント(分析・判断)			グループ学習によって理解と分析を深める		
	4	＜時間:10・11・12＞ その人の望む生活を目指した健康課題(看護問題)			グループ学習によって理解と分析を深める		
	5	＜時間:13・14・15＞ その人の望む生活を目指し、強みを活かした看護の方法(看護計画)			グループ学習によって理解と分析を深める		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習によって完成した課題レポート提出 にて評価を行う。</li> <li>・提出課題 60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。(授業参加状況も踏まえて採点する)</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出課題	◎	◎		○		100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Pediatric nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小金丸翔子 時津晴美 立川翠		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	3名とも病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	小児および家族に対する看護を行う上で修得すべき知識として、小児に特徴的な症状、疾患から援助方法を学ぶ。また、慢性期・急性期・終末期および在宅をふまえた疾患の理解とともに治療・処置での小児の特有の援助方法を学ぶ。さらに、発達段階によって入院・治療が小児に与える影響を理解し、小児の自己決定権を促す説明の方法を習得する。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 健康を障害された子どもと家族の特徴について説明できる。	
	○	○				2. 子どもの(各発達時期)身体・認知・情緒の発達と症状の関連性や症状別看護について説明できる。	
	○	○				3. 検査・処置の目的・援助の方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	奈良間美保：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／臨床看護総論』, 医学書院, 2019年 奈良間美保：『統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 臨床看護各論』, 医学書院, 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1・2>健康障害が小児や家族に与える影響				テキスト・配布資料の事前通読・適宜課題提示あり	
	2	<時間:3・4>小児の入院環境と病院における権利および安全管理					
	3	<時間:5・6>発達に応じた説明と同意(プレパレーション)					
	4	<時間:7・8>小児のアセスメント・計測					
	5	<時間:9・10>症状を示す小児の看護ー痛み・呼吸困難・発疹・黄疸					
	6	<時間:11・12>症状を示す小児の看護ー発熱・嘔吐・脱水・けいれん					
	7	<時間:13・14>検査や処置を受ける小児の看護ー身体計測・与薬・注射・輸液療法					
	8	<時間:15・16>検査や処置を受ける小児の看護ー採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺					
	9	<時間:17・18>慢性期で活動制限が必要な小児と家族の看護					
	10	<時間:19・20>急性期で隔離が必要な小児と家族の看護					
	11	<時間:21・22>急性期で生命徴候が危険な状況にある小児と家族の看護					
	12	<時間:23・24>周手術期の小児と家族の看護					
	13	<時間:25・26>終末期の小児と家族の看護					
	14	<時間:27・28>在宅療養を要する小児と家族の看護					
	15	<時間:29・30>障害(先天的・心身障害)のある小児と家族の看護					
評価方法	・3名の講師による講義内容を筆記試験70%、30%に分けて実施、合計100%にて評価する。 ・筆記試験 60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小金丸)	◎	◎				70%
	筆記試験(時津・立川)	◎	◎				30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学方法Ⅲ						
科目名(英)	Pediatric nursing method Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	小金丸翔子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	ペーパーベシエントによる看護過程の展開を学ぶ。急性期の学童期の看護上の問題の検討を中心として、急性期の小児に起こり得る症状と、症状のメカニズム・看護問題に対する理解が深まるよう構築した。また、学内での技術演習として安全に関する演習を含む内容とした。						
授業形式	講義： ○	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			1. 紙上事例を通して急性期(学童期)の患児の看護過程を展開できる。	
			○	○		2. 対象の個別性と倫理に則した吸入の援助を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	奈良間美保：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／臨床看護総論』, 医学書院, 2019年 奈良間美保：『統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 臨床看護各論』, 医学書院, 2019年 小児看護学の講義資料、その他小児看護や病態に関する資料、配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1・2> 小児の疾患と症状の特徴を踏まえた情報収集・アセスメント				紙上事例に対する看護過程はグループワークにて実施、分析・理解を深める。	
	2	<時間:3・4> 小児の発達段階を踏まえた情報収集・アセスメント					
	3	<時間:5・6> 健康障害に対する小児と家族の影響を踏まえた情報収集・アセスメント					
	4	<時間:7・8> 看護診断(看護上の問題)					
	5	<時間:9・10> 看護計画					
	6	<時間:11・12> 事例の看護計画(吸入)に沿って実施(演習)					
	7	<時間:13・14> 吸入を実施した内容をSOAPIに沿って記録を作成(演習)					
	8	<時間:15> 看護過程の評価(振り返り)					
評価方法	60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎				50%
	演習			◎	◎		50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学方法 I						
科目名(英)	Maternity nursing method I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	中村寿美得		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	母性看護学方法 I では、妊娠前からの女性・家族への支援とともに、妊娠期・分娩期・産褥期の身体的変化と異常について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアの必要性を説明することができる。	
	○	○				2. 妊娠期の生理的変化や経過について説明することができる。	
	○	○				3. 分娩期の生理的変化や経過について説明することができる。	
	○	○				4. 産褥期の生理的変化や経過について説明することができる。	
	○	○				5. 各期における異常について述べるすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1.2> 遺伝相談			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	2	<時間:3.4> 不妊治療と看護			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	3	<時間:5.6> 妊娠期の身体的特性			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	4	<時間:7.8> 妊娠期の心理・社会的特性			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	5	<時間:9.10> 妊婦と胎児のアセスメント			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	6	<時間:11.12> 分娩の要素と分娩経過			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	7	<時間:13.14> 産婦の身体的変化			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	8	<時間:15.16> 産婦の心理・社会的変化			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	9	<時間:17.18> 産褥・胎児・家族のアセスメント			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	10	<時間:19.20> 産婦の身体的変化			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	11	<時間:21.22> 産褥の心理・社会的変化			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	12	<時間:23.24> 産褥のアセスメント			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	13	<時間:25.26> 妊娠の異常			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	14	<時間:27.28> 分娩の異常			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	15	<時間:29.30> 産褥の異常			テキスト事前通読、適宜課題実施		
評価方法	・講義内容を 筆記試験 にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学概論							
科目名(英)	Psychiatric Nursing Overview							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	上田朋紀			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務			
対象学科・学年	看護科・2年							
授業概要	精神の構造と機能および心的防衛機制、精神看護学の概念や目的、様々な生活の場における精神保健問題と精神保健活動および看護の役割、危機状態とその看護などを学び、他の各領域での精神健康問題を考える上での基盤とする。その他、精神保健医療福祉の変遷と制度を学び、歴史的背景や現代の動向に対する理解へつなげる。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				1. 精神看護の概念と目的が説明できる。		
	○	○				2. 精神の構造と機能および危機的状況とその看護が説明できる。		
	○	○				3. 様々な生活の場における精神保健問題と精神保健活動および看護の役割が説明できる。		
	○	○				4. 精神保健医療福祉の歴史的背景や時代の動向を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・ヌーヴェルヒロカワ 精神看護学 I 精神保健学 第6版							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	<時間:1.2>精神看護の考え-精神看護学とは、看護師の役割				事前配布資料通読		
	2	<時間:3.4>精神看護の考え-心の健康、精神保健における予防の考え				事前配布資料通読		
	3	<時間:5.6>心のしくみと精神的発達-精神力動論と精神情緒の発達論				事前配布資料通読		
	4	<時間:7.8>心のしくみと情緒的発達-自我の防衛機制				事前配布資料通読		
	5	<時間:9.10>ストレスと対処-ストレス・コーピング理論				事前配布資料通読		
	6	<時間:11.12>危機<クライシス>-危機理論				事前配布資料通読		
	7	<時間:13.14>生活の場と精神保健-精神保健上の問題(家族・家庭)				事前配布資料通読		
	8	<時間:15.16>生活の場と精神保健-精神保健上の支援に携わる関係者(家族・家庭)				事前配布資料通読		
	9	<時間:17.18>生活の場と精神保健-精神保健上の問題(学校)				事前配布資料通読		
	10	<時間:19.20>生活の場と精神保健-精神保健上の支援に携わる関係者(学校)				事前配布資料通読		
	11	<時間:21.22>生活の場と精神保健-精神保健上の問題(職場)				事前配布資料通読		
	12	<時間:23.24>生活の場と精神保健-精神保健上の支援に携わる関係者(職場)				事前配布資料通読		
	13	<時間:25.26>リエゾン精神看護				事前配布資料通読		
	14	<時間:27.28>精神保健医療福祉の沿革-世界・日本における精神医療の歴史				事前配布資料通読		
15	<時間:29.30>精神保健医療福祉の沿革-日本における近年の精神保健医療福祉				事前配布資料通読			
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験	◎	◎				100%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							